

TOKYO X 生産組合

設立10周年記念



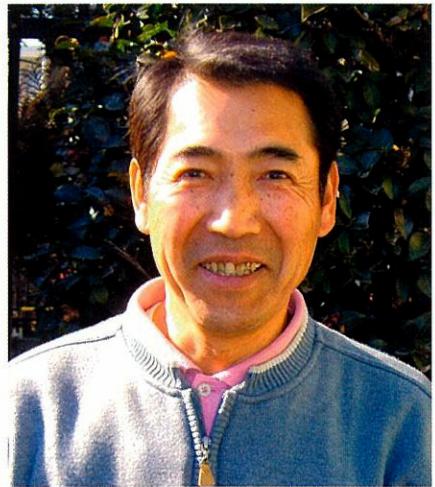
発行 TOKYO X 生産組合

URL: <http://tokyox.net/>

フリーダイヤル : 0120-398-029



東京 SaBAQ 牧場



TOKYO X 生産組合

組合長 榎戸武司

『10周年を迎えて』

我々都市農業の中での養豚業は、農畜産物の自由化・都市化の波・豚価低迷などから農家戸数が年々減少して来ました。

そんな時、「畜産センター(旧畜産試験場)」でエドの維持年数や農家からの要望等を考慮し、安全・安心・おいしい豚肉を消費者へという事で平成2年から北京黒豚・パークシャー・デュロックと3品種間での系統造成が始まり、平成9年7月に登録協会から系統豚として認証され農家に普及されました。

TOKYO Xは、3品種を組み合わせ「改良」し1品種に血液を固定した豚です。この事により、東京にしかない特徴のある豚が出来たわけです。

当時、農家9戸で生産組合を設立し、安全性・生命力学・動物福祉・品質の四つの理念を持ち、おいしい豚肉を消費者の食卓へと生産供給が始まりました。最初は約300頭の出荷頭数から始まり、知名度を上げブランド化を図るために、他県の生産者に声をかけ生産拡大に向けて、平成13年に連絡会議を設立、現在では26戸の農家で生産に取り組み、平成18年には7,079頭の出荷がありました。

しかし、まだまだ生産量が少なく皆様の食卓へ十分に届けられていないと思いますが、さらに切磋琢磨し生産拡大を目指し組合員一同、TOKYO Xを通じて新しい畜産の形を発信することにより家畜と人間が楽しくそして仲良く生きていくことが出来る社会の実現を目指していければと思っています。

TOKYO X 生産組合

初代組合長 青木 清

TOKYO X 生産組合の設立10周年誠におめでとうございます。

10年経過の中で関係各位の多大なご協力に深く感謝申し上げます。当時の畜産試験場で食味のすばらしい合成豚が完成したという事で安全で安心して食べられる豚肉の生産を始めようという事になりました。

今ではトレサビリティという事が普通に言われるようになりましたが、当時それを始めようとしたわけです。指定飼料についてはポストハーベストフリー、もちろん遺伝子組み換えなしの原料でいこうという事でしたが、飼料会社も幾つか当って断られました。そこで現在のゼンケイさんにお願いすることになりました。ゼンケイさんには初めの少量の時から大変お世話になりました。又、販売面についても幾つかの話もあったわけですが、いろいろな点で現在のミートコンパニオンさんに決まったわけです。

銘柄豚も本来何年かの経過の中で認められていくのでしょうか、生産が始まる前からマスコミに取り上げられ、その点では大変助かりました。10年間飼育してみて、合成豚なるが故にか、難しいところがあるのが実情ですが今後も他県の方々の協力をいただきながら生産拡大していくようになればと思います。今後とも関係者各位のご協力をいただきながら20周年を迎えるようにお願いいたします。

TOKYO X 生産組合

前組合長 関谷博明

10周年記念、心よりお祝いいたしますとともに、この気難しい豚肉作りプロジェクトにお付き合いいただいている皆様に感謝の念で一杯です。

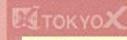
在任中を顧みますと、アソシエーション、連絡会議等も組織され、耳標・棚卸し等の報告書の様式も整備された時期でした。しかし一方では、八王子食肉処理場・畜産会の存続問題といった深刻な事態と直面していた時期もありました。

また、立川に農業振興事務所が開設され、トウキョウ X の事実上の拠点がここに移ると、組合主体の色合いが一段と濃くなり、組合の仕事量と責任が激増した感がありました。

10周年を迎えた今日、食の安全・安心が求められる中、食品業界の不祥事の多いこと。どんなに立派な飼育マニュアル、管理マニュアルがあっても、それを実行するのは人の心。東京Xはその心の結晶と、今改めて覚えたり。



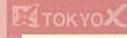
生産者紹介



市川 久・東京都青梅市



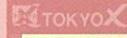
「新鮮な畜産物の提供により消費者に畜産のすばらしさを伝えたい」そんな気持ちで生産に励んでいます。



桃井佐門夫妻・長野県松本市



広大で自然あふれる大地で、健康でのびのびと育てる豚づくりを実践しています。



吉岡幸彦・東京都世田谷区



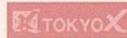
高級住宅地の豊かな緑の中の運動場で、自由に遊びまわっている、超セレブな豚を育てています。



宮下次夫・長野県筑北村



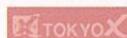
山と緑に囲まれた自然あふれる地域で、豚と会話をしながら愛情をたっぷり注いだ豚づくりをしています。



星恵美夫妻・宮城県登米市



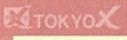
県北部のラムサール条約批准地である、伊豆沼のある町で、元気なトウキョウXを育てています。



関谷博明・東京都瑞穂町



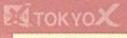
自分で食べたい豚肉・家族に食べさせたい豚肉作りを日々心がけています。



飯泉信夫・茨城県筑西市



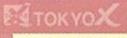
「自分の舌で確かめたおいしい農畜産物を多くの消費者に届けたい」そんな強い意志をもって、農業に取り組んでいます。



中西重男・東京都八王子市



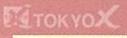
おいしさと安全を消費者に届けられるように日々取り組んでいます。



飯ヶ谷一郎夫妻・茨城結城市



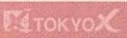
「安全で限りなくおいしい豚肉を1人でも多くの人に届けたい」そんな気持ちで生産に励んでいます。



前田常太郎・東京都新島村



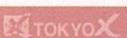
母豚を増やしたいので、これから新しい豚舎をつくる計画もあります。



宇津木稔・東京都青梅市



奥多摩の山々を間近に望み、多摩川の川風をあびる開放的で清潔な環境で育てています。



柿島正幸・山梨県甲府市



果樹園に囲まれ甘い香りのする豚舎で、おいしい豚肉をつくるため、豚との二人三脚を目指しています。



新島村ふれあい農園・東京都新島村



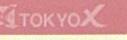
新島村内の養豚農家と村外関係機関との調整役を果たしています。



青木重之・東京都青梅市



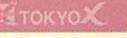
緑と小川に囲まれた豚舎で、育成率の向上と消臭対策に取り組み、健康な豚の生産を目指しています。



山田多賀男夫妻・宮城県登米市



養豚と稲作を組合せ、有機堆肥の循環的利用を基本にエコ農法を行い、安全安心な良質米の宅配販売を行っています。



中村豊・東京都町田市



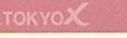
肉豚に加え種豚の生産にも力を入れています。食べた人が笑顔になるような美味しい豚肉を目指して1頭1頭大切に育てています。



星昌宏夫妻・宮城県登米市



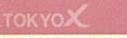
水と緑豊かな所で、安心・安全でおいしい豚肉をお届けできるよう、日々頑張っています。



澤井保人夫妻・東京都八王子市



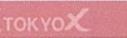
美味しさと安全性を限りなく求めるTOKYO Xにほれて、頑張っています。少し高いかもしれませんのが、けっして期待を裏切らない美味しいがあります。ちょっと贅沢をしたい日にピッタリです。



小木寿夫・茨城県古河市



おいしい豚肉を作り、豚・人・環境すべてにやさしい・うれしい農業をめざしています。



山本勉・東京都新島村



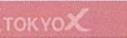
子豚を畜産センターから払い下げいただき肉豚生産をしています。地産地消を目指し地元で販売しています。島でも美味しいと大変評判です。



千野豊一・山梨県甲府市



高台の南面で、風通し・日当たりも良好。水質にも恵まれたすばらしい環境で飼育しています。



川田修一夫妻・茨城県結城郡



水田に囲まれた緑あふれる豚舎で、夫婦二人三脚、豚と人がともに幸せで楽しくなる養豚を目指しています。



榎戸武司・東京都国分寺市



消費者に理解される、地域循環型の東京農業を実践し美味しい食材を食卓へと頑張っています。

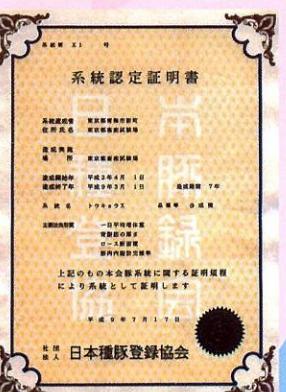
TOKYO X 生産組合10年の歩み



「市川さんが初出荷」



「“Japan Times”で紹介される」



「日本で初めての合成豚として認められる」

- H12 · “Japan Times”に掲載 (7月)
- 第1回TOKYO X枝肉肉質向上検討会開催 (3月)
- TOKYO-X Association発足 (10月)
- フジTV “料理の鉄人”で食材で登場 (9月)
- TOKYO豚コンテスト ‘99出場 (3月)

- H10 · 日本TV “どっちの料理ショー”で本日の特選素材で登場 (10月)
- TOKYO販売開始 (10月)
- 都外生産者との共同生産開始 (7月)

- H9 · 「トウキョウ X」合成種系統豚として認定 (7月)
- TOKYO生産開始 (7月)

- H8 · 東京都高品質系統豚生産出荷組合設立 (11月)



「TOKYO X の解体ショー」



「畜産シンポジウム」

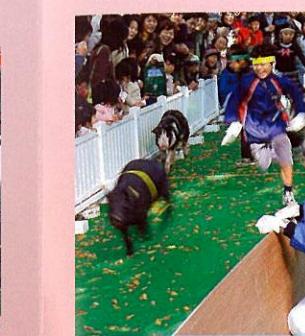


「サシの入ったTOKYO X ロース断面」

- H15 · 第1回トレセラビリティ検討委員会の開催 (10月)
- 自主研究活動等育成事業の実施 (7月)

- H14 · フジTV “SMAP X SMAP”で食材に登場 (11月)
- お客様アンケート調査実施 (7月)

- H13 · TOKYO X 連絡会議発足 (7月)



「“東京都食育フェア”にて初めての子豚のレースを行い大いに盛り上がる」

- H17 · アグリフェスタ東京に初出店 (焼肉試食) (11月)
- TOKYO X 国商標登録取得 (6月)
- TOKYO X 生産組合へ名称変更 (4月)
- NPO法人CCCNETへTOKYO X 生産組合の事務委託開始 (4月)
- 都外種雌豚生産開始、組合ウェブサイト開設 (3月)

- H16 · 第1回トウキョウ X種雌豚目合せ会開催 (10月)
- フジTV “どっちの料理ショー”本日の特選素材再登場 (7月)

- H18 · “アグリフェスタ東京”で1頭分のTOKYO X を提供

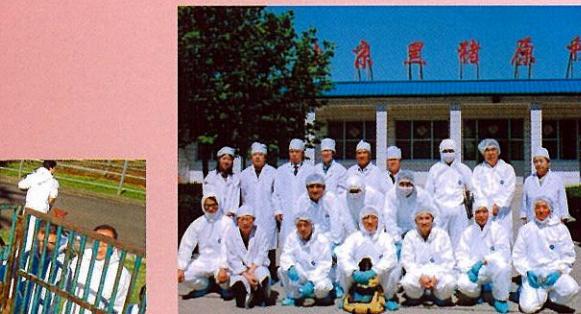
「肉質検討会」



- H19 · 東京都食育フェアで子豚のレース開催 (11月)
- ウェブでのトレセラビリティ開始 (10月)
- 枝肉取引価格改正 (10月)
- 道の駅八王子滝山にて初の生産者直販開始 (4月)
- スーパーマーケットトレードショーアイテム展示 (2月)



「道の駅での直売」



「“風の学校”への入豚式。中学生に可愛がられる」

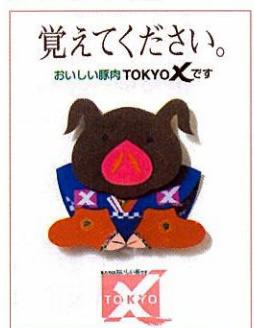


「TOKYO X 生産組合Webサイト」

TOKYO X のパンフレット類



第1弾



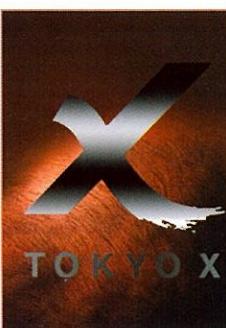
第2弾



第3弾



第4弾



現在

『TOKYO X』名前の由来

- 美味しい肉質の豚をかけあわせてできた交雑種のX（クロス）
- 未知の可能性X（エックス）を秘めた
- 東京生まれの豚ということからTOKYO Xと名付けられました

『TOKYO X』独自の生産理念



Safety : 安全、だから安心です。

- 肥育期間中には、飼料に抗生物質を添加していません。また、ワクチン中心の飼育プログラムに従い、予防的な投薬はしません。

Biotics : 本来の生命の力を活かします

- 指定飼料中のトウモロコシは、非遺伝子組み換え作物でポストハーベストフリーのものを採用しています。
- 指定飼料は、脂肪の質を高める大麦を2割以上含んだ特別メニューです。

Animal welfare : 快適な飼育環境の中で育てます

- 動物本来の生理に沿った飼養管理を行うことで、より健康的な豚に育つよう配慮しています。
- 豚房スペースは動物福祉先進国のドイツをお手本に、開放型の豚舎で十分な採光と換気をキープした環境です。

Quality : 3品種の合成による新しい系統豚です

- 生産効率優先の改良ではなく、脂肪の質と味が良い「北京黒豚」、筋繊維が細かく肉質が良い「パークシャー種」、脂肪交雑が入る「デュロック種」をもとに、各々良いところを取り込んで改良した系統豚です。
- 上品なさっぱりとした脂肪は、ほどよい柔らかさのおいしい肉に仕上がります。

『TOKYO X』こだわりの指定飼料



安全・安心・美味しさにこだわったTOKYO X の飼料の特徴は飼料穀物をNon-GMO（非遺伝子組換え）にしていることです。国産で調達できない穀物はNon-GMOのものを輸入しています。輸出国ではGMO品種の作付けが増えており、一般には分別されずに流通されています。Non-GMOの作物を輸入する場合にはきちんとした分別管理が必要になります。

この分別管理をIPハンドリング (Identity Preserved Handling)と言います飼料の主原料穀物のトウモロコシを例にとってみるとNon-GMOの契約栽培、収穫、貯蔵、輸出のための配送（港までの運搬、船積みまでの保管、分別された船積み）各段階でIPハンドリングがされたことの証明書が手渡されてゆきます。日本に輸入されてからも同様に、船からの荷揚げ、保管倉庫、配合飼料メーカーそれぞれがIPハンドリングの証明をします。また、日本に到着したトウモロコシを日本の検査機関で検査します。検査値が定められた基準以下である事と分別管理の証明が揃ってNon-GMOの表示が出来ます。このトウモロコシはポストハーベストフリー（収穫後に農薬を使用しない事）であることが契約栽培の条件のひとつとなっています。TOKYO X はこのトウモロコシを使っています。

『TOKYO X』トレーサビリティ

トウキョウ X は豚1頭ごとに耳標をつけて管理しています。生産情報を記録して、いつ生まれてどこでどのように育ったか、と畜・カットの情報など、お肉になるまでの過程がわかる仕組みになっています。

組合Webサイトから検索画面に入ることができます。



『TOKYO X』出荷頭数の推移



平成9年度から18年度にかけてのTOKYO X 出荷頭数の推移を表したグラフ



東京都産業労働局農林水産部農業振興課
課長 武田直克

TOKYO X 生産組合、創立10周年記念おめでとうございます。

TOKYO X は輸入肉や大規模生産に圧されていた東京の養豚農家の活性化や、都市畜産のメリットを生かした安全安心な「おいしい豚肉」づくりを目標に、高付加価値の畜産物として誕生しました。日本で初めて3種類の豚を交配し創出した系統豚のため、従来の養豚と比較し、育成管理等大変なご苦労があったことと推察いたします。そのチャレンジ精神、たゆまぬ努力に敬意を表する次第です。

東京都でも消費者の要望に応え、より安全な東京ブランド畜産物をたくさん供給できるように2万頭生産の目標を掲げました。現在、都外生産者のご助力もいただき7千頭規模にまで発展しています。これは、ひとえに皆様のご尽力の賜ものだと考えております。

今後もブランド畜産物の旗手として一層の飛躍発展されることを祈念申し上げ、創立10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

TOKYO X の10周年、心からお祝い申し上げます。

国内ではじめての合成豚「トウキョウX」が日本種豚登録協会の系統として承認されたのが平成9年7月のことです。美味しさに関わる肉質(霜降り)を改良したこと。しかも豚で実施したことが国内最初でした。あれから10年、X豚をここまで育てていただいた生産者、流通関係者、行政関係者そして多くの消費者の皆様に改めて御礼と感謝を申し上げたいと思います。

当時振り返れば、まず、命名の斬新さがこの豚を知って頂いた1つの理由になりました。農芸畜産課の担当、鈴木健さんがつけた「TOKYO X」、さすが東京都さんとマスコミ関係者をうならせた名前でした。NHK、「クイズ日本人の質問」にも名前で取り上げられたくらいです。東京都畜試という公的機関が斬新な豚を造ったことが珍しかったようです。

そしておいしい豚肉との評価が出てからマスコミの報道はすさまじいものでした。当時、高品質豚といえば鹿児島黒豚、その関係者から「強力なライバルが出現した、安閑としてはいられない」、「X豚によって豚が話題に取り上げられるので私達も喜んでいます」と言われました。年間取材回数46回(平成9年)、その後の3年でもNHKが5回、民放テレビ21回、新聞社20回、出版14回、週刊誌6回です、その他漫画にもなりました。国内でこれほど多く取り上げられた銘柄豚はおそらく初めてだろうと教えられました。全国の養豚関係者はもとより、一般の人々に広くX豚が知られることになり、その後10年、このような名柄豚は出ていません。

名前だけでなく、美味しさの評価、販売の実績、お客様の声などをとっても国内トップを走ってきたと言えます。今も肉の味はどこに出しても見劣りしない立派なものです。最近、パンの給与で霜降り豚肉が出来たとニュースになっていますが、LWDの霜降り=美味しい肉とは一致していません。肉の美味しさは、霜降りのほか筋肉纖維の細かさや脂肪酸組成なども関与します。肉の美味しさの科学的根拠として、味のコクを与えるものとされていた脂肪が、味自体に関与していることが分かってきました。オレイン酸の関与です。X豚はオレイン酸含有量が一般豚よりかなり多いのでこれらと符合します。

しかし、X豚普及やその後の増頭の取り組みでは難しさがありました。農家の皆さんには「良い豚が出来たので飼ってほしい」とは言わんように申し合わせました。エドの普及での苦労があったのです。肉質は良いが飼いにくい難しい豚、産子数が少ない豚であり、どうして飼って頂けるか普及員の皆様には大変な努力をして頂きました。今回、決定的に違ったのは行政の動きでした。流通をどうするか、養豚経営が受けられる価格で買って頂く卸商が果してあるだろうか、公正と中立の立場でどうさばくのか、売り出すための方針の決定、具体策、それらを行政担当者は見事に処理し、今日のX豚があるのだと思います。後日、X豚に乗り遅れたという後悔談も耳にしました。改めて鮮やかな行政手腕だったと再評価しています。

TOKYO X 豚は全国の250の銘柄の中でも肉質に関しては常に上位グループに属する評価と実績を残していると言えます。しかし、今、X豚の後を追っている銘柄豚があります。普通の品種で優れた肉質の豚がいくつか出来ています。X豚がこのままで良いなどと安閑としてはいられません。X豚には欠点がいくつかあり、農家所得の足を引っ張っています。これらの解決には、将来を見通しつつ、新しい豚肉造成への挑戦も必要です。東京都の生産者は消費者にとって重要な役割を果たされています。都民の畜産振興策として行政、民間一体の新しい育種の取り組みを提案しておきたいと思います。

財団法人東京都農林水産振興財団
事業課長 柴田修一

TOKYO X 生産組合設立10周年、誠におめでとうございます。

トウキョウ Xは、北京黒豚、バークシャー種、及び、デュロック種の3品種から作り出された、わが国初めての系統豚です。素になった北京黒豚は、昭和54年に東京都と北京市が姉妹友好都市提携を結んだことによりもたらされたもので、日本では東京都のみが持つ重要な資源です。

幸い、名前の奇抜さ、霜降りというセールスポイント、3品種から造成した初めての豚ということがマスコミの注目するところとなり、一躍世間に知られることになりました。その後、関係者の皆様の大変なご努力とTOKYO Xの「実力」により今日の盛況を見ております。TOKYO X 生産組合の皆様にはこの10年間のご尽力に対しまして、心から感謝し、お礼申し上げます。

青梅畜産センターは、TOKYO Xのブランドが一層確固たるものとなるよう、種豚生産に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

元東京都畜産試験場長
兵頭 勲

TOKYO X の10周年、心からお祝い申し上げます。

国内ではじめての合成豚「トウキョウX」が日本種豚登録協会の系統として承認されたのが平成9年7月のことです。美味しさに関わる肉質(霜降り)を改良したこと。しかも豚で実施したことが国内最初でした。あれから10年、X豚をここまで育てていただいた生産者、流通関係者、行政関係者そして多くの消費者の皆様に改めて御礼と感謝を申し上げたいと思います。

当時振り返れば、まず、命名の斬新さがこの豚を知って頂いた1つの理由になりました。農芸畜産課の担当、鈴木健さんがつけた「TOKYO X」、さすが東京都さんとマスコミ関係者をうならせた名前でした。NHK、「クイズ日本人の質問」にも名前で取り上げられたくらいです。東京都畜試という公的機関が斬新な豚を造ったことが珍しかったようです。

そしておいしい豚肉との評価が出てからマスコミの報道はすさまじいものでした。当時、高品質豚といえば鹿児島黒豚、その関係者から「強力なライバルが出現した、安閑としてはいられない」、「X豚によって豚が話題に取り上げられるので私達も喜んでいます」と言われました。年間取材回数46回(平成9年)、その後の3年でもNHKが5回、民放テレビ21回、新聞社20回、出版14回、週刊誌6回です、その他漫画にもなりました。国内でこれほど多く取り上げられた銘柄豚はおそらく初めてだろうと教えられました。全国の養豚関係者はもとより、一般の人々に広くX豚が知られることになり、その後10年、このような名柄豚は出ていません。

名前だけでなく、美味しさの評価、販売の実績、お客様の声などをとっても国内トップを走ってきたと言えます。今も肉の味はどこに出しても見劣りしない立派なものです。最近、パンの給与で霜降り豚肉が出来たとニュースになっていますが、LWDの霜降り=美味しい肉とは一致していません。肉の美味しさは、霜降りのほか筋肉纖維の細かさや脂肪酸組成なども関与します。肉の美味しさの科学的根拠として、味のコクを与えるものとされていた脂肪が、味自体に関与していることが分かってきました。オレイン酸の関与です。X豚はオレイン酸含有量が一般豚よりかなり多いのでこれらと符合します。

しかし、X豚普及やその後の増頭の取り組みでは難しさがありました。農家の皆さんには「良い豚が出来たので飼ってほしい」とは言わんように申し合わせました。エドの普及での苦労があったのです。肉質は良いが飼いにくい難しい豚、産子数が少ない豚であり、どうして飼って頂けるか普及員の皆様には大変な努力をして頂きました。今回、決定的に違ったのは行政の動きでした。流通をどうするか、養豚経営が受けられる価格で買って頂く卸商が果してあるだろうか、公正と中立の立場でどうさばくのか、売り出すための方針の決定、具体策、それらを行政担当者は見事に処理し、今日のX豚があるのだと思います。後日、X豚に乗り遅れたという後悔談も耳にしました。改めて鮮やかな行政手腕だったと再評価しています。

TOKYO X 豚は全国の250の銘柄の中でも肉質に関しては常に上位グループに属する評価と実績を残していると言えます。しかし、今、X豚の後を追っている銘柄豚があります。普通の品種で優れた肉質の豚がいくつか出来ています。X豚がこのままで良いなどと安閑としてはいられません。X豚には欠点がいくつかあり、農家所得の足を引っ張っています。これらの解決には、将来を見通しつつ、新しい豚肉造成への挑戦も必要です。東京都の生産者は消費者にとって重要な役割を果たされています。都民の畜産振興策として行政、民間一体の新しい育種の取り組みを提案しておきたいと思います。

言うまでもなく行政の支援は農家の強い見方です。豚肉のトレサビリティ、豚肉ではX豚が国内初めての取り組みです。安全性を担保するためには公的な支援が信頼を高めています。この点で東京都のX豚への支援は国内名柄豚の見本です。

当面、広く都民の皆様の要望にこたえるために量の確保が重要です。それが実現できれば、この先X豚の明るい見通しに繋がると思います。生産者の皆様の奮闘をお願いいたします。

X豚生産は常に高品質化を目指し、そのため日々の行き届く中規模の養豚経営が成り立つことにも挑戦していると思っています。消費者の皆様に美味しい安全な豚肉を提供し、喜ばれる仕事、本当に夢のある仕事だと感じています。X豚の一層の発展を心からお祈りいたします。

東京都産業労働局農林水産部食料安全室
鈴木 健

10年一昔 給餌飼料の内容公開・自給化、トレーサビリティ、アニマルウェルフェア、様々な「非常識」な想いを載せて、心身ともに健康な家畜を育てることがおいしさの根本とスタートしたTOKYO Xも、世に出てから早10年が経過しました。

この10年で、食への関心はますます高まるとともに多様化し、見えないものの価値にも重点が置かれるようになってきました。気がつけば、新しい品質概念への対応がますます求められる時代となっています。こうした中で、できるところからコツコツと取組んできたTOKYO X 生産組合の皆さん、この10年間の取組の成果には敬意を表します。これから残る問題は、飼料の自給率向上とアニマルウェルフェアの具体化でしょうか。

私たちは「畜産」に何を求めるのでしょうか。当初の目的どおり、生産者、流通業者、消費者の皆さんのが手を携えて、その理想に向かって進んでいくという姿勢を貫いていただきたいと思っています。

(元東京都労働経済局農芸畜産課)



株式会社 ゼンケイ
代表取締役社長 石澤直士

TOKYO X 生産組合の設立10周年、まことにおめでとうございます。

養豚の世界でも「銘柄」なり「ブランド」が注目され、話題にされるようになって既にかなりの年月が経過しましたが、その中でもトウキョウ X豚は、異彩を放つ存在でした。言い換えれば、トウキョウ X豚には特別の輝きがあった、と言えるかも知れません。

では、その特別の輝きはどこから生まれたのか。その一つは、それをつくる人たちが小規模農家であるところからであり、それはまた、理に適ったことでもあったと思います。というのも、「銘柄」とは本来、大量生産・大量流通の製品とは一線を画し、手塙にかけてつくる数が限られた品物にふさわしい名称だからと考えるからです。

トウキョウ X豚の輝きはまた、開発の研究分野と、それを普及する人たちの努力から生まれ、高まったものでした。とりわけ、「名柄豚」の称号に恥じない豚そのものを開発し、生産のシステムを確立させた東京都の農業研究機関の皆さんのが献身的な努力は賞賛されるべきだと思います。

もちろん、生産面における厳しい条件をクリアしてきた生産者の努力があってこそ輝きだらうと思います。

最後に、当社も肥育用の専用資料の供給で陰ながらトウキョウ X豚に関わらせていただきましたが、これからも輝きがさらに一段と増すことを心から願い、設立10周年のお祝いの言葉といたします。

